

二一六七番

秋あきの野のの 尾花をばなが末うれに 鳴なくもずの 声聞こゑききけむ  
か 片聞かたきけ我妹わぎも

二一六八番

秋萩あきはぎに 置おける白露しらつゆ 朝あさな朝さな 玉たまとしそ見みる  
置おける白露しらつゆ

二一六九番

夕立ゆふだちの 雨降あめふるごとに 春日野かすがのの 尾花をばなが上うへの  
白露思しらつゆおもほゆ

二一七〇番

秋萩あきはぎの 枝えだもとををに 露霜置つゆしもおき 寒さむくも時ときは  
なりにけるかも